

はえなわ 調査漁具の紹介：延縄

マグロ漁として有名な延縄漁法ですが、東京内湾でも小規模な漁具を用いて漁業が行われています。昭和15年発行の「東京府内湾漁具図集」によるとハゼやフッコ（スズキ）、ウナギ、アナゴなどを対象とした延縄12漁具が掲載されており、昔は東京湾奥でも盛んに操業されていました。

当協会の調査で用いている延縄は、幹縄の長さは約90mで、枝縄が150本取り付けられており、針先にはゴカイ類などの餌が付けてあります。漁具は投入の翌日に回収し、漁獲物を取り上げていきます（図1～3）。

当協会が羽田空港周辺の4か所、延べ幹縄長360mで行った過去10年間（H24～R3年）の延縄調査で獲れた魚種をみると、最も多く獲れたのはマハゼで全体の41%、次いでクサフグ、シロギス、スズキが採捕されています（図4）。

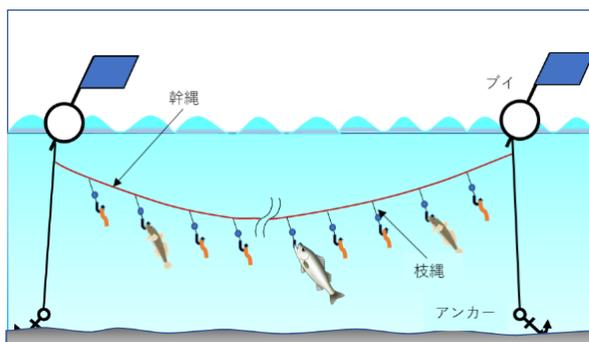


図1 延縄漁法の模式図

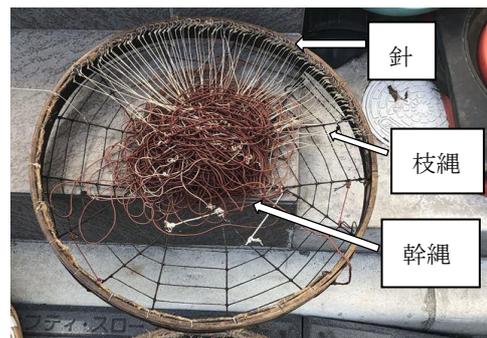


図2 実際に調査で使用されている延縄漁具



図3 漁具を回収する様子
(釣られているのはマアナゴ)

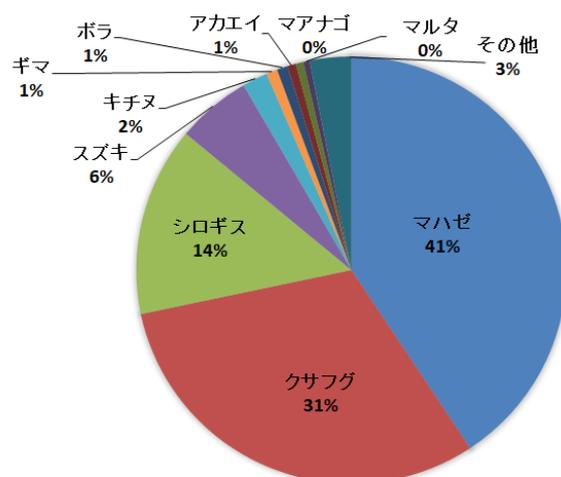


図4 過去10年間に延縄で獲られた魚種の割合